

ふくよか



2020夏号

■長崎県病院企業団本部
■令和2年7月発行

目次 CONTENTS

P2…企業長より

・新型コロナウイルス感染症対応から学ぶこと

P3…本部転入職員紹介

P4…特集① 令和元年度決算見込み概要

P6…特集② 新任幹部職員紹介

P7…本部の取り組みについて

・本部職員研修会をはじめました。
・本部にてテレワークの導入を検討しています。

P8…Break Time

・好き嫌いのお話

vol.

24

新型コロナウイルス感染症対応から学ぶこと

企業長 米倉 正大

中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症は、異常な速さで全世界に広まり、その勢いはまだ衰えていません。人類の生命を脅かすと同時に世界経済への打撃は計り知れないものがあります。日本での感染者数は収束しつつありますが、散発的にクラスターが見られ、6月半ばの時点ではまだ気が抜けない状況です。長崎県病院企業団の中では壱岐病院に6名の感染者が入院しました。重傷者はすぐに大学病院に搬送されましたが、感染病床の確保と発熱外来の確保など、少ない医療資源にもかかわらず、的確な対応がなされ、院内感染も起こさず、収束に向かったことは幸いでした。院長の判断をはじめ職員の頑張りには敬意を表したいと思います。そのほかの病院も、幸い入院患者は発生しませんでした。発熱外来の実施はもちろん、入院に備えての病棟の確保など、県の要請にしっかり答えてもらいました。今後も第2波、第3波の流行に備える必要がありますので、この経験をしっかり共有したいと思います。

私たちは新型コロナ情報について、多くの専門家が、医学的見地から、あるいは経

済学的見地からインターネットやマスコミを通じて発している知識を簡単に知ることができました。しかし、同じような知識を得ても、この緊急事態にそれぞれの個人や各国の対応は大きく異なっています。それぞれの人の知識量は同じでも、その一個一個の記憶には人によって強弱があります。その結果、新型コロナウイルスをこの上なく恐ろしいウイルスだと思うか、新型のインフルエンザで、かかっても軽症で済むしそのうち流行も通り過ぎてくれるだろうと楽観的にとらえるかの違いが、その対処の違いになるのだろうと改めて考えさせられました。

今からちょうど100年前、1918年と19年の2回にわたって、いわゆるスペイン風邪が第1波、第2波と流行し、全世界で2000万人から4500万人の人が死亡したと言われています。日本では記録によると5600万人が罹患し、45万人が死亡しています。このスペイン風邪は、今というA型インフルエンザウイルスではない時代が、まだウイルスという概念がない時代にもかかわらず、当時は未知の伝染病が人から人へ伝搬することを突き止め、人ごみ

に近寄るなどかマスクをかけるとか、今の3密がすでに内務省から通達されていたそうです。今日と同じようにマスクの無料配布も一部には行われたが、生産が需要に追いつけなかったということでした。ここで注目すべきは、第1波は、1918年の8月ごろから流行し始め、10月上旬には全国に蔓延し、流行の拡大は急速で、11月には患者数、死亡者数とも最大に達したのち収束するかに見えたが、第2波の流行が1918年10月下旬から始まり、1920年1月末に流行のピークを迎えたということでした。100年たった今でも、人類はこのウイルスと付き合いつつながら生活しています。この経験は、今の我々にも何らかの参考になるのではないかと思います。

医療体制が十分でなく、また衛生観念が貧弱な発展途上の国において新型コロナウイルス感染症が爆発的な広がりを見せることは想像できませんが、アメリカやヨーロッパなど先進国でも多くの感染者と死者を出しています。そのような中、ある雑誌に、中途半端な日本のコロナ対策がとにかく機能しているということが書いてありました。

PCRの検査件数が極端に少なく、ロックダウンという都市封鎖もなく、また高齢化率が高く、中国人観光客の行きかう密度も高いなど、多くの悪条件にもかかわらず、欧米に比べ死者数は奇跡的なまでに少なかった。日本での対策は何が功を奏したのか今もってわからないということが書いてありました。少なくとも日本政府のコロナ対策が、ほかの国より良かったということではないのは確かでしょう。単に運がよかったというだけではなさそうではつきりしません。結局、日本人の清潔好きと行政の要請に対し自発的な、生真面目な協力が、功を奏したのででしょうか。今、世界では従来の生活様式を変えて、3密を避ける生活が提唱されています。その点、離島での生活様式は、これから脚光を浴びるかもしれません。

いずれにしても新型コロナウイルス感染症の医療及び介護の領域の影響は、かなり大きなダメージを残しました。しかし、多くの国民には医療人の献身的な活躍も大きく評価され、感染症対応の大変さが理解されたと思います。新しいワクチンと治療薬ができるまでは、これからも気を緩めず、スペイン風邪の経験から、第2波、第3波の到来はあるものとして備えなければなりません。

本部転入職員紹介

今年度長崎県病院企業団本部に転入した職員を紹介します！



○総務部

岩崎 次人 総務部長

担当：総務部の事務全般と企業出納員
趣味：本を読むことと銅座の振興です。

「6年ぶりに戻ってきました。」



○総務人事班

田中 江奈 係長

担当：養成医の人事に関する事、
人事評価に関する事、
事務長会議に関する事 等

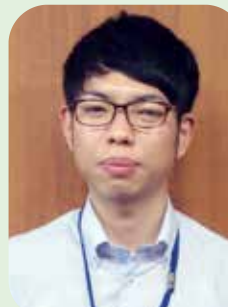
休日：ゴロゴロ寝て過ごしたい。
「超アナログです。不慣れな点が多々ありますので、皆さまよろしく願っています。」



○経営管理班

久保 岳穂 主任主事

担当：構成団体負担金、
未収金対策など
休日：7月初旬に引越したばかりなので
休日は妻とふたりで近所を散歩したり、
部屋のインテリアをDIYしたりしています。
7月中旬に古材からテーブルを作る予定です。



○経営管理班

大石 将人 主事

担当：起債業務、予算に関する事等
趣味等：晩酌が一日の楽しみです。
休日は子供と公園にいて遊んでいます。

「不慣れでいろいろとご迷惑をお掛けしますがよろしく願っています。」



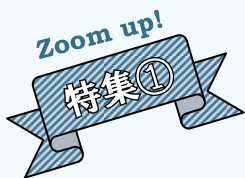
よろしく願います！



○経営管理班

瀬川 大貴 主事

担当：決算に関する事等
趣味等：旅行と食べ歩きが趣味です。
休日は毎年購入のランチパスポートで掲載されている新しいお店や行ったことのないお店巡りをしています。



令和元年度決算見込み概要

下の棒グラフは、病院企業団の令和元年度の決算見込みを表したものです。



医業損益

▲ **30.9億円**
(対前年+8.9億円)

経常損益

▲ **3.6億円**
(対前年+6.2億円)

入院収益：157.8億円 (対前年+11.3億円)
 外来収益：72.4億円 (対前年+1.7億円)
 繰入金：38.0億円 (対前年▲0.9億円)

給与費：157.4億円 (対前年+2.7億円)
 材料費：51.9億円 (対前年+2.2億円)
 経費：41.8億円 (対前年+0.4億円)



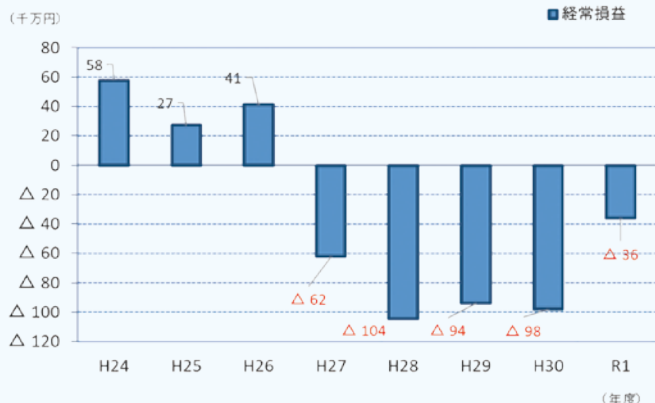
POINT 1

本業である医業収益のうち、その大部分を占める入院・外来収益は約**230.2億円**で、企業団全体では患者数、1人1日当たりの診療単価が入院、外来ともに増加したことから、昨年度と比較し約**13.0億円**増加しています。
 収益的収支における構成団体（県・市・町）からの繰入金は約38.0億円で、総収益の約13.2%を占めています。

繰入金とは？

地方公営企業法に基づく基準により、政策医療（精神・結核）を提供するために必要な経費などを構成団体が負担するものです。

経常損益の推移



POINT 2

令和元年度の経常損益は、約3.6億円の赤字となり、**昨年度と比較すると、約6.2億円改善しました。**これは、医業収益が患者数、1人1日当たりの診療単価が入院、外来ともに増加したことにより約13億円増加したことに対し、医業費用は給与費が約2.7億円、材料費が約2.2億円増加したものの医業費用全体では約4.2億円の増加に抑えられたことが主な原因です。

経常損益とは？

医業収益及び医業外収益から、医業費用及び医業外費用を控除したもので、一会計年度における経営成績を表しています。

病院ごとの 経常損益

() は昨年度との比較

企業団が目標とする「地域ごとでの経常損益の黒字化」については、上五島地区、対馬地区、吉岐地区で赤字となり、残念ながら目標達成できませんでした。

上対馬病院、吉岐病院を除いては昨年度と比較して改善傾向にありますが、各病院が引き続き郷診郷創による患者確保や経費削減に取り組む必要があります。

企業団病院は離島や都市周辺部に所在し、著しい人口減少、少子・高齢化の急速な進行、深刻化する医療従事者の不足など、厳しい経営環境におかれています。

今後も地域に必要とされる医療体制を維持するため、信頼される病院づくりに努めるとともに、経営の健全化に努めてまいります。

◆精神医療センター◆ 経常損益

0・⁹ 億円 (+0.1億円)



◆島原病院◆ 経常損益

0・¹ 億円 (+1.9億円)



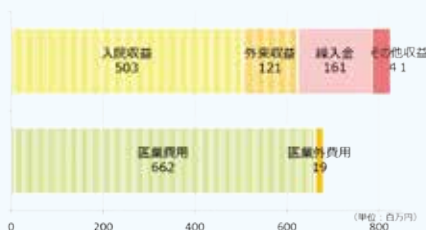
◆五島中央病院◆ (奈留医療センター含む) 経常損益

0・⁵ 億円 (+1.8億円)



◆富江病院◆ 経常損益

1・⁴ 億円 (+0.3億円)



◆上五島病院◆

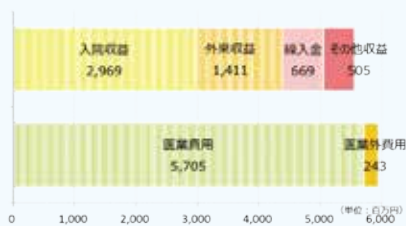
(有川医療センター及び
奈良尾医療センター含む)
経常損益

▲1・⁴ 億円 (+1.2億円)



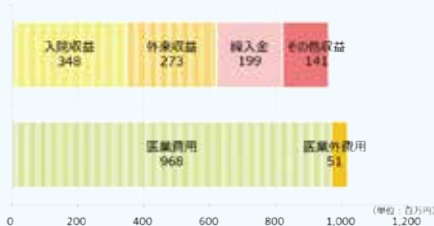
◆対馬病院◆ 経常損益

▲3・⁹ 億円 (+1.4億円)



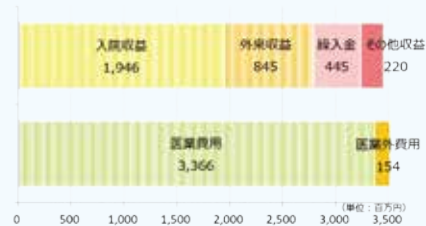
◆上対馬病院◆ 経常損益

▲0・⁶ 億円 (▲0.4億円)



◆吉岐病院◆ 経常損益

▲0・⁷ 億円 (▲0.2億円)



新任幹部職員紹介

4月に赴任された幹部職員の皆様よりお言葉をいただきました。

【精神医療センター 大塚 俊弘院長】



今年度、長崎県精神医療センターに院長として着任しました大塚俊弘です。

1999年以降、精神保健福祉センター、県医療政策課、こども・女性・障害者支援センター等、県の行政医師として勤務した後、4年間長崎を離れて、国立精神・神経医療研究センター、川崎市児童家庭支援・虐待対策室で仕事をしておりました。

久しぶりの病院勤務ですが、これまで、様々な立場で複雑困難な背景を有する人々の援助活動に関わってきた経験を生かして、長崎県の精神科地域医療に貢献出来るよう努めてまいりたいと思います。

【島原病院 木下 明敏院長】



令和2年4月1日の就任早々から新型コロナウイルス感染症の陣頭指揮に奮闘している毎日です。さて私は、平成23年4月に、それまで15年間勤務していた国立病院機構長崎医療センターの内科部長から副院長として赴任しました。それから9年間副院長ならびに医療安全管理室長として努めてきました。

当院は「患者さんの立場に立った医療」という理念を掲げ、地域医療に取り組んでいます。今年度中にごん診療センターの工事が始まりますが、島原半島の基幹・中核病院として、「がん」のみならず全ての領域において、より質の高いレベルでの診療に注力しています。

「生き残るものは、変化に最もよく適応したものである。」などと、ダーウィンの言葉がよく引用されていますが、正解がない今の時代には、医療業界に限らず変革が求められています。今後とも更に一層努力して参ります。宜しくご指導ご鞭撻のほどお願い致します。

【五島中央病院 竹島 史直院長】



このたび長崎県五島中央病院院長及び奈留医療センター所長に就任致しました竹島史直と申します。私は、長崎県佐世保市の出身です。長崎大学を卒業後、長崎大学病院第2内科へ入局し、いくつかの関連病院で内科医としての研さんを積みました。最近の17年間は長崎大学病院で、最初の5年間を総合診療医、その後消化器内科医として診療、研究、医師教育に携わっておりました。

五島での勤務は初めてとなりますが、住民の皆様や地域医療機関の先生方のご要望に応えられるように微力ながら精一杯頑張っておりますので、今後のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

【上対馬病院 長谷川 泰三院長】



この度、上対馬病院院長を拝命致しました長谷川泰三です。2014年夏、縁あって上対馬病院で勤務を始め、約6年の月日が流れました。離島での生活経験のない私は、その間に島民が抱える孤独感、絶望感、社会が抱える閉塞感が如何に切実かを知る事ができました。企業団人事で動いていない私のような人間がこの様な立場に任命された意味を改めて考え、地域および病院自身が活気溢れるものになるよう私自身邁進したいと考えています。若輩者でありますので、皆様の御指導よろしくお願ひ申し上げます。

【精神医療センター 甲斐田 武彦事務部長】



私は精神医療センターが初めての病院勤務となりますが、長崎県庁では12年あまり医療福祉行政に携わってまいりました。なかでも、平成18年に当時の大塚

課長のもと、小児救急電話相談の開設やDMA T設立などに奔走した医療政策課の係長時代は多忙ながらも楽しい思い出ばかりで、今回こうして大塚新院長と再びご一緒できることは望外の喜びであり、光栄に思っております。3月までは休日限定のバイク乗りでしたが、今は通勤のため、毎日朝夕、愛車シャドウ750で峠道をひらりひらりと走ることができるのも嬉しいことです。

【五島中央病院 藤野 弘幸事務部長】



五島中央病院事務部長の藤野と申します。国立病院機構長崎医療センターを退職し、長崎県病院企業団職員として採用されました。

五島の豊かな自然や世界遺産の観光を楽しみに参りましたが、新型コロナ蔓延もありしばらく自粛しています。私は、転勤する度にその自治体の「ふるさと納税」を利用するのですが、

「ごとう応援セット（五島の特産品）」があることを見つけ早速、妻や娘たちに送りました。早く五島の匂も味わいたいものです。

長崎県病院企業団病院は、地域医療構想の趣旨に基づき、構想区域全体の医療機能の分化、連携や人材確保の取組みを行うほか、急性期の機能を中心に地域での困難な医療の確保に努めることとされています。五島中央病院は、周産期医療、精神医療、救急医療を担っています。今までの経験を活かし「五島の地域医療に貢献し患者さんに信頼される病院をめざして」努力して参りますのでよろしくお願い致します。



本部の取り組みについて

本部職員研修会をはじめました。



研修のねらい

- ◆発表（講義）するために、事前にテーマに対する規程等の再確認とその背景・目的等を再認識できる。
- ◆スライド作成作業により、内容をまとめる能力を身につける。
- ◆発表することにより、相手に伝える能力を身につける。
- ◆聴講者には、担当外の業務等の見識を広げる。

第1回目は岩崎総務部長に講義のお手本として、新型コロナウイルス感染症に対する必要病床数の考え方や文書作成の基本についてご講義いただきました。

テーマである新型コロナウイルス感染症の対応も大変勉強になったのですが、一番大事なことは「普段から考えること」、「わかったふりにならないこと」とご指導いただきました。また、文書作成では文書の流れや伝え方についてご指導いただきました。

次回以降、本部プロパー職員が登壇します。今回のお手本のように流暢な講義は最初からは難しいかもしれませんが、子供が大人に成長していくように、時間をかけ徐々に経験を積み重ねていきたいと思っております。

まずはこの研修会の継続が目標です。



本部プロパー職員が与えられたテーマ（規程、制度等）に基づき、その内容を取りまとめ、講師として、プレゼンテーション形式にて本部職員に講義します。

総務人事班より

「本部にてテレワークの導入を検討しています。」

新型コロナウイルス感染症対策として、本部でテレワークの導入ができないか検討しているところです。今回は、実際に試行した職員にアンケートを実施しました。



1. PCの性能や回線の状況は十分でしたか？

支給されたポケットWi-Fiと自宅の光回線のいずれも試してみましたが、リモート接続時においても多少のタイムラグはあるものの、大きな影響はなく、快適に作業を行うことができました。

2. 周囲の環境はどんな感じでしたか？

外部からの電話や来客対応、レク等が無いので、集中して作業することができました。

3. 執務室でのお仕事と違って、ここがよかった、ということがあれば教えてください。

自宅に居ながら勤務が可能のため、休憩時間に家事を行えるのがよかったです。
また、公共交通機関の時間を気にせず、幼稚園スタッフが早い時間帯に子どもを登園させることが可能となり、送迎等への負担軽減を実感しました。

4. 逆に、難しかったことがあれば教えてください。

最大のデメリットは「印刷ができない」ということ。（※持ち出し用PCへのデータコピーは情報漏洩リスクを伴うため。）
リモート画面上で印刷を実行しても、職場のPCから職場のプリンタへ出力されるため、印刷は行えず、2つのデータを比較しながらの作業を行うには2画面表示するか、自宅のオフラインPCを併用して作業を行う必要がありました。

5. アドバイスがあればお願いします。

自宅には、普段デスク周りに完備されている資料などはありません。
そのため、リモートワークを行うには、あらかじめ「その日は〇〇の資料を作成しよう。」など、いつも以上に「目的・目標」を明確に設定して業務を行う必要があると感じました。
「情報持ち出し可能な内容か」、「1日の業務量として適切か」など、入念に準備を行いましう。

Break Time

「好き嫌いのお話」

今回は「好き嫌い」のお話です。好き嫌いの対象は「人」ではなく、「食べ物」です。正確に言うと、嫌いな食べ物のお話です。

どうしてこのお話をするかというと、昨年度まで企業団本部に在籍していたKTN（テレビ局ではありません、ケーツネです）さんが、よく飲み会の席で「自分は鳥肉が苦手だけど、焼き鳥は食べられる」と言っていたことを思い出したからです。KTNさんは、「鳥の唐揚げは食べ物ではない、でも、焼き鳥や軟骨唐揚げは食べられるよ」と訳の分からないことを言っていました。

さて、本題に入りますが、人には、誰でも、嫌いな食べ物があると思いますが、私の愛する娘は、なんと! カレーライスが嫌いなのです。カレーライスが嫌いな人は、あまり聞いたことがないと思いますが、娘はカレーの匂いと辛さがダメのようです。

なので、我が家の食事のメニューにカレーライスは存在しません。娘が小さい頃は、カレーの一番辛くないもの（要するに甘いカレー）や、ルーをハヤシライスに変えて食卓に出していましたが、娘が小学生になる頃からカレーライスは食卓から無くなりました。一般的な家庭では、日曜日はカレーライスの日だとか、カレーライスなら翌日も食べられるのでということで、カレーライスは、献立を考える主婦の強い味方だと思います。我が家で、どうしてもカレーが食べたいときは、娘が居ないときを見計らって、レトルトカレーを食べたり、妻と2人で外食のカレーライスを食べたりしています。

ちなみに、私の嫌いな食べ物ですが、お酒好きなので、基本的に甘いものが苦手です。特に、おはぎとスイカはダメです。よくスーパーの地下売り場におはぎが並んでいます。あれを見ると鳥肌が立ちます。また、スイカは匂いを嗅ぐとカブトムシを思い出すのでアウトです。



我が家のレトルトカレーです。

みなさんの嫌いな食べ物は何でしょうか?

(文：副企業長 上田 彰二)



編集後記

今号の表紙と裏表紙の担当です。

表紙の写真もまだ撮影していないなか編集後記の原稿を入力しています。

きっといい写真が撮れるだろうと、写真撮影担当職員のセンスに期待しつつ・・・

「令和2年度新規採用職員研修」集合写真は加工することなく表紙におさまりました。

今後とも、「ふくよか」の編集に皆さまのご協力よろしくお願いします。

ふくよか

～「ふくよか」の由来～
医療人として患者さんに寄り添った会話が自然と出てくるような能力をつけてほしいとの企業長からの願いが込められています。

令和2年7月発行
編集・発行/長崎県病院企業団本部
〒850-0035 長崎市元船町17-1 長崎県大波止ビル7階
TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759
E-mail : honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp
URL : <http://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp/>



長崎県病院企業団

検索